

第6回 熊本市市民公益活動支援基金運営委員会会議録概要

日 程：平成25年3月25日（月）13:30～16:15

場 所：熊本市総合保健福祉センター ウェルパルクまもと 1階 大会議室

出席者：明石委員長、前田副委員長、木下委員、水野委員、宮本委員、平塚委員

欠席者：石櫃委員

一般傍聴者（6名）

事務局	ただいまから第6回熊本市市民公益活動支援基金運営委員会を開催します。 それでは、分野指定助成【健康・医療・福祉】の分野の公開プレゼンテーションを 始めます。 まず、最初の団体は、受付番号4番「くまもと歯っぴーかむカムひごまる協議会」 さんをお願いします。 受付番号4番「くまもと歯っぴーかむカムひごまる協議会」 【事業名】 生きる喜びに繋がる口の機能の発達を促す「ペロタッチ」の普及事業 10分間のプレゼンテーション それでは、運営委員の皆さんからの質疑に移ります。 質疑の時間は5分です。質疑の時間は委員長にマイクをお渡しします。
明石委員長	それでは、質疑の方に移らせていただきます。 ご発表のありました内容につきまして、質疑やご意見等ございましたら、どなたか らでも結構ですのでお願いします。
木下委員	ペロタッチは、歯磨きでできることなんですか。舌に刺激をするのですか。
くまもと歯っぴーかむカムひごまる協議会	そうです。歯ブラシで軽く舌のところをさわってあげるだけで、舌が反応して丸く なったりしてくれるんです。高齢者の方たちにもいい刺激だと思っています。
木下委員	別に薬を使うわけでもないのですか。
くまもと歯っぴーかむカムひごまる協議会	はい。薬は使いません。
前田副委員長	具体的に、この補助金でなされる内容は、ペロタッチの指導者を育成することなのか、 それとも、パンフレット等を作るという事でしたけれども、補助を受けてする事業の 中身を少し教えてください。
くまもと歯っぴーかむカムひごまる協議会	大きく3つあります。 1つは、専門家の方に集まっていいただいて、お母さんたち向けに、解りやすいマニ ュアルというものを作っていくこと。 2つ目が、リーダー育成ということが必要だという風に考えています。地域の部分 で、そういった部分を普及活動していただけるリーダーをその中で養成していくこと。 そして、3つ目が、更なる普及活動で、お母さんたちにマニュアルをお渡ししなが ら、理解を促進していくという、この3つの活動をメインに考えおります。

明石委員長	それでは、私の方から質問します。 あまり知られていないという、だからこそ先ほどの3つの柱で取り組んでいくということなのですが、今まであまり知られていない理由は何かありますでしょうか。
くまもと歯っぴーかむカムひごまる協議会	周りの人たちに伝えるツールという部分が、今までは、不足していたように感じます。ただ、この3年間の蓄積を持って、色んな効果という部分を継承していくことは出来たのではないかという風に思っております。その部分の蓄えを基に、ここで一気に広げたいという風に考えてます。
明石委員長	他に質問はありませんか。 それでは、時間となりました。お疲れ様でした。
事務局	続きまして、受付番号7番「Happy hearts project SOLEIL」さん、ご準備をお願いします。 受付番号7番「Happy hearts project SOLEIL」 【事業名】Happy hearts project SOLEIL ボランティアスタッフ ブラッシュアップ&スタートセミナー 10分間のプレゼンテーション それでは、運営委員の皆さんからの質疑に移ります。 質疑の時間は5分です。宜しくお願い致します。
明石委員長	それでは、委員の皆様方質疑をお願いします。
宮本委員	ママだけが中心的になっているような感じがするのですが、もう少し、お父さんも対称としたものがあると、お母さんが参加する際にお父さんの理解が得やすいように思いますが、パパってというのは、どのように考えていらっしゃいますか。
Happyhearts project SOLEIL	そうですね。お父さんの方も考えてはいるんですけども、まずは、お母さん方が、お家に帰って、お父さんに笑顔で帰っていけるという、たぶん家にいるときは、眉間にしわを寄せたままで、お父さんとあまりいい状態ではない時もあると思うんですけど、お母さんが癒されて、お母さんが気持ちよくお家に帰ることによって、お父さんにも、笑顔を提供できるのではないかとということで、子どもさんだけではなく、家庭に笑顔を持って帰れるような、ママカフェでありたいと思って開催しております。
宮本委員	パパの参加というのは、無いということですか。
Happyhearts project SOLEIL	お父さんのカフェの参加は、今のところ予定していなかったんですけども、ボランティアスタッフとして、お父さんの参加の方があっております。
平塚委員	現在のスタッフの数と、この基金を使って増やそうと思われている目標の数とかあれば、教えてください。
Happyhearts project SOLEIL	今、すごく流動的な数でして、お声かけをして集まっていたいて、一番多い時で40名近くいらっしゃいましたけれども、現在、声を掛けて動いていただける方は、20名ということで、実は託児の方が、お一人にお一人付けるという、とても贅沢な託児をしておりますので、託児の人数も増やしていきたいということで、子どもさん20名預かる時には、20名必要ということですので、あと、やはり、20名近くの方を育成していきたいと思っております。

水野委員	今の話をお伺いしまして、養成された、育成された方々、お母さん方、お父さんたちもいらっしゃるという事でしたが、ボランティアスタッフが、今回のセミナーを通して育つことによって、どんな熊本のママ社会が出来上がっていくと思われるのか。ということと、そういう方々が、育成されることによって、熊本のいわゆる家庭事情というものが、どんな風になっていくと思われていますか。
Happyhearts project SOLEIL	熊本の男性は、意外と育児の方に興味がないというのが、私も感じているところなのですが、私でも感じているところなので、やはり、家族。そういうボランティアの方たちが、お母さんの立場というものを良く理解していただいて、もっとみんなで、子どもたちが住みやすいまちになれたらいいかなと思っています。それから、子どもへの関わり方というところでも、学びが出来るということで、年齢問わず、子どもさんに関わる。それから、お母さんたちに手を差し伸べる。お母さんって大変なんだなっていうのを、まちで見かけたら、手を差し伸べられるような、そういう感覚をもつ方が増えていただけたらいいかなと思っています。
明石委員長	それでは、1点お尋ねしたいのが、先ほどのご説明では、スタッフを育てていきたいということが、第一の狙いなんだということなんですが、そこに集中する理由が何かありますか。
Happyhearts project SOLEIL	この運営は、ボランティアでやっているということで、このお母さんたちを癒す事業が、私がやっていることで、私で止まってはいけないという思いがありまして、私から継続して、ずっと永遠に続いて、次のお母さん世代が、またそれを受け継いで、次のお母さんたちを癒す事業をずっと繋げていってくれたらいいなという思いで、これが継続的な事業になるようにということが一番のボランティアを育成するという希望です。
明石委員長	他に質問はありませんか。 それでは、時間となりました。お疲れ様でした。
事務局	続きまして、受付番号8番「NPO法人 あゆみ」さん、ご準備をお願いします。 受付番号8番「NPO法人 あゆみ」 【事業名】動作法訓練・研修 公開講座 10分間のプレゼンテーション それでは、選定委員の皆さんからの質疑に移ります。 質疑の時間は5分です。よろしくお願いいたします。
明石委員長	それでは、委員の皆様方、ご質問等をお願いします。
前田副委員長	2つあります。 まず1つ目は、施設で体を動かす動作は、いつもされていると思うのですが、研修というのは、開所式の時に1回だけなのですか。それとも、年間等を通じてやっているのでしょうか。 それから、2つ目は、開所式には、具体的に、どういう方々を何人ぐらい呼ばれるのか。障がいのある方の親御さんと呼ぶのか、一般の人と呼ぶのか、どれくらいの人と呼ぶのかという事です。その2つをお願いします。

NPO 法人 あゆみ	この動作公開講座は、一応、熊大の方でも、年に2回されています。それは、養護学校の先生方を対象にされていますけれども、私たちが、今度この公開講座をするのは、初めてです。とにかく多くの人に見てもらいたい。「このように訓練してます。」といっても、「実際どんなことをやっているんですか。」という感じで、なかなか、見ていただける機会が無くて、口で言っても、なかなか理解してもらえない部分もあります。だけど、本当に子どもたちが、この訓練会に行くよと言ったら、何が何でも行きたがるのです。ということは、子どもの体が訓練をすることで柔らかくなる。それは本人が一番解っているのかな。という思いがあって、年齢をとった親たちは、子どもに聞かされてこの訓練会に来ているというような状態なんです。介護支援センターも出来ましたので、できれば定期的に年2回程度の訓練公開講座の開催を考えています。とにかく一般の方を対象にした訓練会ができればいいなと思っています。 もし、訓練を体験されて、受けてみたいと思われた方は、介護支援センターの方に足を運んでいただければ、先生方が2人ずつ常駐していただけることになっていますので、時間を見ていただく。私たちが、今思っているのは、1人の子どもに、計画としては、50分から40分、小さい子たちは30分ぐらいでもいいのかなという感じなんですけれども、そのぐらいの時間を予定して思っています。 もう1つ、開所式は、私たちが案内状を出したのが130ぐらい出しています。その他に、まだ地元の方々とか、少しでも多くの方に見ていただきたいという思いがありますので、今度、新しいところに行きましたので、そこの地元の方たちにも、このチラシを持って案内したいと思います。
木下委員	年齢的に何歳から何歳までを、お受けになられていますか。
NPO 法人 あゆみ	何歳でも。とにかく、産まれた赤ちゃんからお年寄りの方まで。脳梗塞等で倒れた方にも、よその県の福祉施設の中ではずっと広まっています。だけど、熊本は未だ残念ながら、そのあたりが、まだ出来ていません。大人でも子どもでも、その子に合った訓練をしてもらえるという事。この前、機能病院の先生にお会いして、この訓練の話をしたら、「障がいのある人たちに対して、家庭の中で親が訓練していくという事は、すごく理に適っていると思う。だから、医学が良いとか、そういうことではなくて応援したい。」と言っていただきまして、法人の理事にも入っていただいたという訳なんです。ですから、「理に適っている」って、障がい児を抱えて、本当に暗くなっている時に、この訓練をしていくことで、毎日の目標を持てるんです。「ここまで緩んできた」「ここまで、これは動くようになった」「足が使えるようになった」「手が使えるようになった」という、その目標があれば、どんどん前に進んでいきたい。どんどん続けていきたい。という思いがあって、この動作法と巡り会えて、日々の暮らしが、ほんとに明るくなって、前向きに出来たのではないかなと思うんです。だから、ほんとに小さい子どもたちのお母さんたちにも、病院に連れて行こうではなくて、家庭の中で時間が空いている時に、「ちょっと、ここを動かそうね」という感じで、訓練をやってもらえれば、ほんとに良いのかなと。私も子どもが小さい頃は、「私は親が最高のトレーナーでありたい」と思っておりました。
明石委員長	他に質問はありませんか。 それでは、時間となりました。お疲れ様でした。
事務局	続きまして、受付番号13番「with women」さん、ご準備を宜しくお願いします。 受付番号13番「with women」 【事業名】産後のリハビリテーション概念 普及事業 10分間のプレゼンテーション それでは、選定委員の皆さんからの質疑に移ります。 質疑の時間は5分です。よろしくお願いいたします。

明石委員長	それでは、委員の皆様方、宜しくお願い致します。
宮本委員	事業の呼びかけというのは、どのようにされていますか。
with women	子育て支援団体の主催をさせていただいております。そこに参加されるママたちのネットワークを持っておりますので、そちらでの案内をしています。それから、小、中学校、幼稚園の母親学級に定期的に呼んでいただいたりとか、ママサークルや行政、企業様などからのご依頼がありますので、そこで、案内したり、チラシを配っています。 実際の運動をお伝えしながら、こういう専門的な講習（with women）というものがありますよ。とお伝えしています。
宮本委員	産婦人科系の病院の方に「こういう活動をしています」というお声かけは、されていますか。
with women	まだそこまでは至っていませんが、それが今回応募させていただいたきっかけの1つでもあって、まだ実績が足りないのと、自分たちで感じてますので、そういった状態で行くのではなくて、きちんと小冊子などで活字化して、「こういうことさせてもらっています。」「こういう風に、市の方の認知もいただいています。」という形でチャレンジをという風に考えています。
宮本委員	そういう形もいいと思いますが、もっと早く知りたかったという方が、たぶん、いらっしゃると思うので、少しでも早く広報を思いますが、ご自身が出産された産婦人科などにはお話はされていますか。
with women	大変ありがたいお言葉、ありがとうございます。やはり、そうなりと一患者でしかないのが、難しい面があるのではないかと考えております。「こういうことやってますけど」っていきなり、先生にお伝えが出来るものかと一歩考えてしまいます。是非、今回の助成事業をきっかけに考えております。 あと、もう一つは、産後のトラブルというのは、実は泌尿器科の方が対処が得意なんです。そういう背景があって、まず今回は、アドバイザーの方に、泌尿器科のドクターが入ってもらいましたので、そこを突破口にできればいいかという風に考えております。
水野委員	自分が出産したわけではないので、女性の体のこととか解らないのですが、確かに、出産後の妻は、節々が痛いとか立てなくなったりとか色々あったなという気がするのですが、実際、まだ活動は短いと思うのですが、これを望んでいるお母さんたちが実際に体験して実感なさった事と、参加されるお母さん方がどういうものを得られて、どのような感想をもたれたのか、教えてもらってよろしいでしょうか。
with women	いつも定期的に行っている内容というのが、最初に、医療現場の立場として、介護生理学からお話をします。体の産前産後の変化からお話ししまして、そこから、専門職の特徴を活かして、きちんと、まずは、骨盤底筋群という産道のある筋肉が、ご自分で意識できているかということと、ご自分で動かせるという事を知っているかというところから始まって、それから、ちゃんと動きを確認できるのかというところを、専門的に技術を使ってチェックします。それに関しては、フォローをしていく中でこういう講習会は初めてだったと、皆さん心が緩んで帰られますので、自然と身体のケア、心のケアに繋がっていくという印象はあります。
明石委員長	他に質問はありませんか。 それでは、時間となりました。お疲れ様でした。

事務局	続きまして、受付番号14番「ピープルファースト熊本」さん、ご準備を宜しくお願い致します。 受付番号14番「ピープルファースト熊本」 【事業名】障害当事者による まちづくり提案 10分間のプレゼンテーション それでは、選定委員の皆さんからの質疑に移ります。 質疑の時間は5分です。よろしくお願いいたします。
明石委員長	それでは、委員の皆様方、ご質問をお願いします。
前田副委員長	委員会を開催して、計画を作るような予定の予算となっておりますが、委員5人は、どういう方を予定されておられるのか。今の発表をどういう風にされるのか。その辺をお聞かせください。
ピープルファースト熊本	委員は、医師会であるとか、親の会であるとか、各障がい者施設の代表の方であるとか、そういった方々にも、参加していただくような形で委員を構成しまして、発表の方を、秋ごろにシンポジウムを行うような形で、行政や市民の方にも参加していただけるような形で、発表を考えております。また、そのシンポジウムの内容は、後日、報告書等にまとめて、お知らせをする予定です。
明石委員長	それでは、1点お尋ねいたします。シンポジウムの中身ですが、それは、どちらかというと制度的な話を中心としたシンポジウムになるのか、あるいは、身体的な介護というか、どちらに焦点を置いた内容をお考えなのでしょうか。
ピープルファースト熊本	身体的なものと、制度的なものを両方見ていくような感じです。
明石委員長	他に質問はありませんか。 それでは、時間となりました。お疲れ様でした。
事務局	続きまして、受付番号18番「はーとりんく熊本」さん、ご準備を宜しく申し上げます。 受付番号18番「はーとりんく熊本」 【事業名】命と心をつなぐ『手当て』で、地域救護力アップを ～応急救護手当て講習会～ 10分間のプレゼンテーション それでは、選定委員の皆さんからの質疑に移ります。 質疑の時間は5分です。宜しくお願い致します。
明石委員長	それでは、委員の皆様、ご質問をお願いします
水野委員	お話の中で、先ほど救急隊の方々もご覧になられているということですが、行政、消防局との連携も視野に図られていて、非常にいいなと思ったんですが、いわゆる日赤や、消防局などでも同じような講習会をなさっている訳ですが、その中で、特には一とりんく熊本さんが実施される講習会は、どういう所に特徴があるのかを教えてください。

はひとりんく 熊本	私たちは、一般の市民団体で思いがあるスタッフで構成されている団体です。私たちの強みは、会員の皆さんがいざという時には手を差し伸べたい。何かをしたいという思いを持っているところです。 ただ、そういう時、同時に心配もあるんですね。手を差し伸べることで、逆に悪くならないかとか、この後に何か責任を取らされるようなことがおこるのではないかと、そういう心配を持たれているんですが、私たちは、法的な側面から、良き隣人法というような、「市民の手当は守られているんですよ。」というようなことをお伝えしたり、あと、あくまでも、私たちは、専門家ではありませんので、救急隊が到着するまでの、悪くならない手当ですよ。というような、心のハードルを下げるというようなアプローチ法でやっています。それから、大事なことは救う側の安全確保。私たちの安全を確保するというような側面も、必ず講習会の中に入れていきます。私たちは、一般市民の目線（同じ目線）でお伝えしていけるところかなと思っております。
宮本委員	特に医療に従事している訳ではない主婦の方、子どもたちと一緒に学べる場があればいいなと思います。見させていただいた感じでは、どちらかというと、大人の方が中心的な感じがしますが、子どもたちがママと一緒にそういう場に行って学ぶことも面白いと思います。子どもが一緒だと時間的にも制約されたくさん学ぶというのは、少し難しいかもしれません。短い時間で、少しずつ、1つずつ学んでいけるようなことは出来ますか。
はひとりんく 熊本	例えば、1つとして、学校の中で学級活動というものがあります。そういった時に、一度依頼があって、クラスの親子で参加していただいたことがあります。小学生対象ですが、そういう風な事も、経験がありますので、そういった機会が増えるというのは、同じように、そういう展開を見つけて行けたらいいなと思っております。
明石委員長	他に質問はありませんか。 それでは、時間となりました。お疲れ様でした。
事務局	それでは、次に【環境保全】の分野のプレゼンテーションを行います。 受付番号12番「NPO法人 しらざぎ」さん、ご準備を宜しくお願いします。 受付番号12番「NPO法人 しらざぎ」 【事業名】熊本城石垣除草・清掃ボランティア活動 10分間のプレゼンテーション それでは、選定委員の皆さんからの質疑に移ります。 質疑の時間は5分です。宜しくお願い致します。
明石委員長	それでは、委員の皆様方、ご質問をお願いします。
水野委員	熊本城をきれいにさせていただき、非常にありがたい活動の内容だと思います。お話をお伺いしておりましたら、活動なさっている方々は、白鷺という会社の従業員の方々とご家族ということで、CSRを推進するための団体として、NPO法人しらざぎさんがあるという感じなんですか。
NPO 法人しらざぎ	以前から、白鷺電気工業として熊本城の清掃をやっておりました。会社は会社で公共的な仕事もやっていますが、ボランティア活動も行っています。平成19年11月にNPO法人を設立した理由は、会社とは区別して、ひとつの特定非営利事業として貢献しようという思いで設立しました。先ほど目的も4点ほどありましたけれども、福祉から子どもの健全育成まで、特に、親子のふれあいを通し子どもたちの健全育成につなげたいという願いもあります。

宮本委員	会社に関係の無い方の参加というのはいかがですか。
NPO 法人しらさぎ	ございます。友人や知人に声を掛けて案内をして、都合の良い方に参加をしていただいております。約140名程度の参加ですが、多くは、社員ならびに家族、親戚、知人が多いです。
宮本委員	それ以外の方、知人などではなく地域の方とか、会社の校区の中で呼びかけをするなどの予定はないのですか。
NPO 法人しらさぎ	まだ、そこまでは、やっておりません。大事なことと思います。
明石委員長	それでは、1点伺いいたします。先ほど、植林のお話も出ていましたが、地域の特性として、熊本は緑ということで、緑が他の地域に比べて非常に恵まれているということですが、反面、山が荒れ果てているということもあります。今、取り組んでおられる植林事業とかをもっと広めていこうとかいう、そういう事は、考えておられるのでしょうか。
NPO 法人しらさぎ	「ふれあいの森しらさぎ」現在の阿蘇西原村が、秋の下草刈で終了です。一応、5年契約で行うことになっておりまして、今後は、県のほうに継続できるようにご紹介をお願いをしているところです。候補地といたしましては、人吉とか球磨地方で組みたいと考えております。
明石委員長	他に質問はありませんか。 それでは、時間となりました。お疲れ様でした。
事務局	次に、【生涯学習・子どもの健全育成】の分野のプレゼンテーションを行います。 それでは、受付番号11番「うえき自然塾」さん、ご準備を宜しく願います。 受付番号11番「うえき自然塾」 【事業名】野外体験活動を通して子ども達に生涯にわたってたくましく生きる力の基礎を育成する活動 10分間のプレゼンテーション それでは、選定委員の皆さんからの質疑に移ります。 質疑の時間は5分です。宜しくお願い致します。
明石委員長	それでは、委員の皆様方、ご質問をお願いします。
前田副委員長	今、お役を終えられた先生を中心にやっておられると思うのですが、去年も確か、応募されたと思いますが、ボランティアのスタッフ、地元の協力する人が増えていきますか。それから、地域外から来る人。参加者子どもたち、お父さんやお母さんたち、参加者も増えていきますか。状況を教えてください。
うえき自然塾	私は、ボランティアスタッフのことをリーダーと呼んでおります。 リーダーは、少しずつ増えています。今まで来られなかった方で、新しく来てみて、ものすごく虜になられた方など、市内の方とか市外からの方からも来られます。 それから、参加者は、少しずつ入れ替わっていきます。日曜日に行うため、小学校4年生以上は、部活動があつて、なかなか参加しづらい状況があるようです。それで、その子たちが卒業して、新しい小さな子どもたちが参加されるなどという形で、少しずつ変化しながら増えているところもあります。

平塚委員	たけのこ掘りや栗ひろいなど、地元の方のご協力が必要だと思いますが、どのくらいご協力いただいているのでしょうか。
うえき自然塾	この地域は、過疎化が進んでいます。 私たちが行事をする1週間前には、準備作業をします。その時は、地域の方たちが、刈払機を持って出て来られますし、マコモを植えたりする時には、田おこしをしなければなりません。その時には、地域の方から機械を貸していただいたり、作業をしていただいたりなど、それから、行事をする時、時々差し入れを持ってきていただいたり、去年は、アケビをコンテナに入るくらい持ってこられたり、ある方は、トマトを籠一杯に持ってこられたりして参加されます。元々、この場所も、主に地域の方の土地です。それを無償で提供していただいています。このように色々な形でご協力をいただいております。
明石委員長	それでは、1点お尋ねさせていただきます。 この取り組んでおられるプログラム。内容から見ると、全て参加体験型で、実際、参加してこそその値打ちということなのですが、参加される前と参加された後では、かなり変わりますか。
うえき自然塾	全く変わります。特に子どもさん。昨日の感想の中で、「『お母さん、家にいる時よりもずっと楽しい。』という事を、うちの子が言いました。」と初めて来られたお母さんが言われました。お母さんたちも、鋸を初めて持つ方がとても多いです。お祖父ちゃんお祖母ちゃんも一緒に来られますが、あまり変わらないです。だから、1回されると、あの感触の虜になるということもよく聞きます。それから、会の終わりには、必ず子どもたちに感想を希望者に言ってもらいます。その目を輝かせて発表する姿を、親は見ながら、嬉しそうな顔をしている。そういう所が良いと思っています。
明石委員長	他に質問はありませんか。 それでは、時間となりました。お疲れ様でした。
事務局	次に、【まちづくり・地域安全】の分野のプレゼンテーションを行います。 それでは、受付番号9番「NPO法人日本防災士会・熊本県支部」さん、ご準備を宜しくお願い致します。 受付番号9番「NPO法人日本防災士会・熊本県支部」 【事業名】地域市民とNPOを活用するまちづくりの人材養成講座 10分間のプレゼンテーション それでは、選定委員の皆さんからの質疑に移ります。 質疑の時間は5分です。宜しくお願い致します。
明石委員長	それでは、委員の皆様ご質問をお願いします。
前田副委員長	活動は、素晴らしいことをされていると思いますが、今回の基金への助成の中身は、図上訓練を10回開催するための費用の補助を希望されているという事でよろしいのでしょうか。その他、色々協定書を作っているなど出てきましたが、11万円助成金を貰ったら、どこで使うのかということを、明確に教えてください。
NPO 法人日本防災士会・熊本県支部	講師や指導者の報償費や、アドバイザー及びスタッフ関係の飲食費などに利用させていただきたいと思っております。
前田副委員長	図上訓練を10回するという事ですか。

NPO 法人日本防災士会・熊本県支部	そうです。
水野委員	図上訓練10回ということなのですが、開催される単位は、例えば、先ほど白藤校区ということだったのですが、町内や校区だったり、だいたい、こんな所と考えていらっしゃるであれば、教えていただきたいと思います。
NPO 法人日本防災士会・熊本県支部	町内会は、熊本市には多数あると思いますが、私たちが管理している防災士が在住している町内を対象に行いたいと思っています。
明石委員長	それでは、1点お尋ねいたします。 先ほど、図上訓練。写真で何回かされているところを見せていただきましたが、あの図上訓練に参加された後、参加する前と参加した後では、参加者の意識、反応は、どの程度、変わりが出てきていますか。
NPO 法人日本防災士会・熊本県支部	訓練には、学生もいますし、婦人もいますし、色んな自治会長さんもいらっしゃいました。その中で、避難所でどのようにして生きていくのかという訓練を HUG（避難所運営ゲーム）というのですが、HUG の実施で体育館へ避難をする時に、病人の方が来たら、どのように避難するのか。犬や猫を連れてくる方を、どこに避難するのか。幼児の方、妊婦の方は。ということが、今までたくさんありました。図上で訓練している中で、皆さま方が、こんなに大変だということが解られ、帰る時にボランティアの学生さんが何人か来られ「来て良かった」「知っているのと知らないのとでは、とんでもないですね。」と、とても喜ばれました。私たちは、それを普及していきたいと考えています。そして、避難所訓練で、災害が起こった後どういう生活の仕方が良いのかを色んなアドバイスをして回っています。皆さん一度聞かれますと、非常にためになりますし、とても感謝されます。
明石委員長	他に質問はありませんか。 それでは、時間となりました。お疲れ様でした。
NPO 法人日本防災士会・熊本県支部	ありがとうございました。
事務局	続きまして、受付番号15番「特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場連絡会」さん、ご準備を宜しくお願いします。 受付番号15番「特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場連絡会」 【事業名】「子ども忍者 商店街をはしる！」 10分間のプレゼンテーション それでは、選定委員の皆さんからの質疑に移ります。 質疑の時間は5分です。宜しくお願い致します。
明石委員長	それでは、委員の皆様、ご質問をお願いします。
前田副委員長	書類を見ると、助成希望額が上限設定額を越えて申請をされています。これでなければ駄目だということであれば、審査が違ってきますが、足りない分は何とかするという状況なのか、まずは、その事務的なところを確認させていただきたいと思います。
特定非営利活動法人熊本県子ども劇場連絡会	申請の段階でもそのお話をされましたけれども、一応このまま、15万9千円で、出させていただきました。けれども、11万円の助成なので不足分は他の手立てで補いたいと思います。

宮本委員	今回の取組みは、子ども劇場の全体としての取組みなのか、それとも、各区ごとに分かれての取組みなのか。予算面も含めて教えてください。
特定非営利活動法人熊本市子ども劇場連絡会	この事業は、主催が熊本市子ども劇場連絡会で主催しますので、各劇場への協力体制はお願いすると思いますが、協力関係はありますけれども、主催は県として行います。
宮本委員	予算的なものは、子ども劇場の方からの支援は無いのですか。
特定非営利活動法人熊本市子ども劇場連絡会	無いです。
宮本委員	例えば、玉名と書いてありましたが、玉名子ども劇場さんの活動の中の1つとして、玉名でされていますよね。今回は、熊本市子ども劇場さんの黒髪・碩台校区が対象となるということですか。
特定非営利活動法人熊本市子ども劇場連絡会	対象地域としてはそうですが、主催は県の連絡会がやりますので、他の劇場とはお金は関係なくやります。
宮本委員	参加されるのは、碩台や黒髪小学校区ではなくても参加は出来るのですか。
特定非営利活動法人熊本市子ども劇場連絡会	一応、一般的には募集しますが、先ほど申し上げましたように地域にこだわった活動としてやりたいので、碩台と黒髪にはチラシを撒かせていただいて、呼びかけをしたいと思っております。
明石委員長	他に質問はありませんか。 それでは、時間となりました。お疲れ様でした。
事務局	これで全てのプレゼンテーションが終了いたしました。 引き続き、明石委員長から総評をお願いしたいと思います。
明石委員長	今回の申請は、全体的に「いかに繋いでいくか」という内容が多かったように思います。市民の皆さんは、例えば、防災や障がい者支援などに関する多様な仕組みや制度があり、様々な主体があるということをご存じですが、そこになかなか入っていけないという実態があります。市民の皆さんが一步踏み込む際のハードルをいかに低くするかが大切なポイントです、皆さんの取組みは、いずれも、このハードルをいかに下げるかについての方向性を示していただいたように思います。また、そのハードルをいかに下げるかについて、皆さんのご苦勞を改めて実感することができました この基金は、熊本市が民間の寄附を募り、その浄財を生かして、地域の資源を組み合わせることによって地域課題を解決するという趣旨に基づいて造成されています。この基金を活用するためには、人づくりや人材の発掘に繋がるような多様な取組みが繋がっていくことが必要です。そのような取組に対して、この基金を使って支援をしていくことで、まさしく熊本市が目指すまちづくりに繋がるものと期待しています。 この基金も今年度から本格的な運用が始まります。これから皆さんの活動が本格化していくこととなりますが、是非、皆さんの活動を中心にその輪が広がっていくように願っています。 今日、聞かせていただいた感想を述べさせていただきました。 本当に、本日はありがとうございました。

事務局	ありがとうございました。 本日の結果につきましては、4月10日頃までには、各団体に通知が届くように発送をするとともに、採択されました団体については、熊本市ホームページで公表を行います。 本日は、ご参加いただきありがとうございました。 これをもちまして、本日の公開プレゼンテーションを終了させていただきます。
-----	---